

在日外国人支援団体と地域商店会との連携により 地域社会の活性化と多文化化を 促進するプロジェクト

実施背景

遊座大山商店街は板橋区を中心地として60年にわたり繁栄してきました。板橋区役所まで徒歩5分というロケーション、商店街の中に都税事務所や文化会館など公立施設を擁することから、人通りの多い街です。商店街にはおよそ180の店舗があります。約10%にあたる16店舗が外国人オーナーが経営する店舗となっています。外国人住民の定住化に伴い、遊座大山商店街の中でも、外国人住民がエスニックレストラン、食材店、衣料品店などの店舗を展開しています。外国人住民が通りを往来することも多く、各店舗が外国人顧客のニーズに応えることも求められ始めています。



一方、少子化・高齢化の影響もあり、経営が立ちゆかなくなり、閉店に追い込まれる店舗も少なくなりません。地域社会の活性化を考える時期にきています。

「多文化」の力を活かした商店街づくりを考えるため、本プロジェクトを行いました。

実施団体



遊座大山商店街

豊かな多文化共生社会の実現を目指して



実施内容

セミナー

- ①オリエンテーリング
- ②多文化共生社会における商店会の活性化
- ③商店街を中心とした街の活性化
- ④商店街の活性化と多文化共生型まちづくり

日本人商店主の意識調査

外国人住民の意識調査

遊座大山多文化マップ



多文化・多民族フェスティバル

シンポジウム



2013年2月16日 東京新聞

日本人住民と外国人住民の間に
存在する目に見えない壁



媒介役としての市民団体の存在